



4.5億円の可能性を未来へつなぐ

～桜流鏝馬がもたらす地域経済へのインパクト～

Future Generations



FUTURE GENERATIONS



➤ 習学ゼミ主催学生団体

- 2019年3月活動スタート
- 8期目メンバー13名

➤ スポーツ流鏝馬と十和田市の魅力を発信

- スポーツ流鏝馬大会イベントでの企画運営
- SNSでの情報発信
- 各種プレゼンテーション



私たち Future Generations は、2019年3月に活動をスタートし今年で8期目となり、現在は高校生13名で活動している学生団体です。

私たちは『スポーツ流鏝馬で十和田市を世界一輝ける街へ』をテーマに、十和田乗馬倶楽部の方々のご協力をいただきながら、スポーツ流鏝馬大会でのイベント企画やSNSでの情報発信、プレゼンテーションなどを通して、十和田市とスポーツ流鏝馬の魅力を広める活動を実践しています。

YABUSAME EXPO

@2025大阪・関西万博



昨年度は大阪・関西万博での『Yabusame Expo』に参画し、スポーツ流鎗馬の選手紹介やパネル展示に加え、次世代の視点から十和田市とスポーツ流鎗馬の魅力を伝えるプレゼンテーションを実施し、国内外の来場者へ広くPRを行ってきました。



YABUSAME EXPO 活動内容



➤ 選手紹介パネル



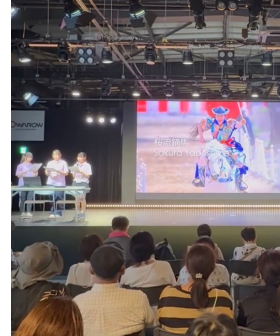
➤ 流鏑馬騎士みくじ



➤ ちぎり絵
顔出しパネル



➤ プレゼンテーション



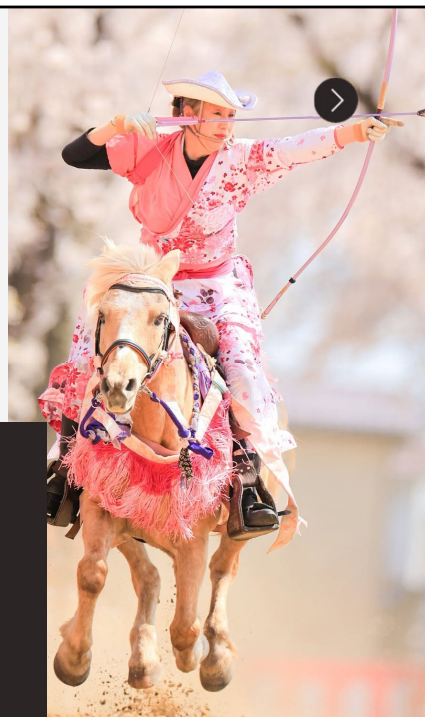
昨年度は大阪・関西万博での『Yabusame Expo』に参画し、スポーツ流鏑馬の選手紹介やパネル展示に加え、次世代の視点から十和田市とスポーツ流鏑馬の魅力を伝えるプレゼンテーションを実施し、国内外の来場者へ広くPRを行ってきました。

馬鎗流桜 効果波及経済調査 経調査

- ・ 調査実施日

2026年 4月18日・19日

桜流鎗馬大会



私たちが愛する『スポーツ流鎗馬』の魅力をさらに科学的に深掘りするため、今年度新たに挑戦した『桜流鎗馬経済波及効果調査』についてご報告いたします。

プロジェクトの 背景と目的

➤ 背景

- 桜流鎗馬は十和田市の重要な文化であり、観光資源である
- 来場者数など、限定的な指標でしか効果が把握されていない

➤ 目的

- 来訪者の消費行動や回遊状況をデータ化し、その価値を科学的に立証する
- 客観的データに基づき、サステナブルな運営体制の構築と新たな観光誘致を探究する



本プロジェクトを実施するに至った経緯と目的についてご説明いたします。
桜流鎗馬は十和田市の文化であり、重要な観光資源でもあります。地域経済への貢献が期待される一方で、これまではその効果が来場者数などの限定的な指標でしか把握されていませんでした。

来訪者の消費行動や滞在実態、地域内での回遊状況を踏まえた客観的なデータを示すことができれば、この文化のさらなる発展に繋がると私たちは考えました。
そこで本プロジェクトでは、桜流鎗馬の価値を科学的に立証し、その分析結果に基づき、サステナブルな運営体制の構築や新たな観光誘致の可能性を探ることを目指しました。



調査手法と 分析プロセス

スポーツ流鎧馬の真の価値を、科学的に分析する

1. 実態調査
2. 母集団設定
3. 波及効果分析



本プロジェクトにおける調査手法と、波及効果を算出するまでの分析プロセスについて、3つのステップでご説明いたします。

STEP 1

実態調査

21名の高校生による一次データ

現地調査から集計まで、自らの足で収集

642 件

160.5%

達成率

支出の二重計上を防ぐ4つの分類

一般来場者

居住地別の宿泊費や飲食費

出場選手

大会期間の経費、年間の練習費、借馬代

フォトコンテスト応募者

機材費や移動に伴う支出

主催者

補助金や協賛金の正確な支出先

1つ目のステップは『実態調査』です。

本調査の最大の特徴は、これらすべてが私たち21名の高校生チームが自らの足で集め、集計した一次データであるという点です。

2日間の現地調査の結果、目標を大きく上回る『642件』の有効回答を得ることができました。目標400件に対する達成率は実に160.5%にのびります。

調査にあたっては支出の二重計上を防ぐため、対象を『一般来場者』『出場選手』『フォトコン応募者』『主催者』の4つに細かく分類し、それぞれのお金の流れを正確に把握しています。

一般来場者の方々には居住地別の宿泊費や飲食費を、出場選手の方々には大会期間だけでなく年間の練習費や馬のレンタル代を、フォトコンテスト応募者の方々には高額な機材や移動に伴う支出を、そして主催者については補助金や協賛金の正確な支出先を収支明細から精査しました。

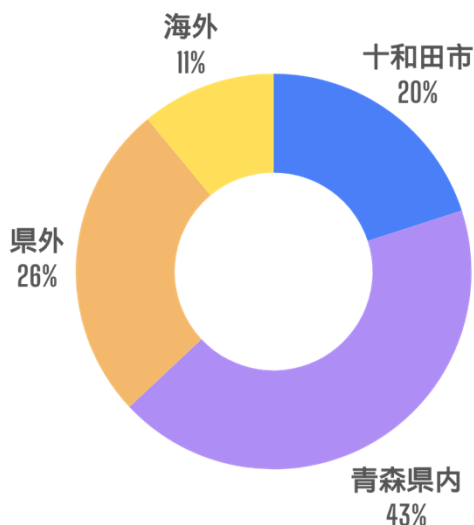
高校生が現地調査、回収、そして集計作業のすべてを主導した、極めて純度の高い一次データです。

STEP 2

母集団設定



来場者の居住地構成（シール調査結果）



2つ目のステップは『母集団設定』です。

ここでは、回収した642件のデータを、公式発表である総来場者2万1,000人へと拡大推計しています。

よくあるイベント調査では、全体の平均値を単純に掛け合わせてしまいがちですが、これでは正確なデータにはなりません。
なぜなら、市内にお住まいの方と、海外からお越しの方とでは、消費の仕方が根本的に異なるからです。

そこで私たちは、詳細アンケートとは別に、553件の簡易な居住地シール調査を現地で行い、これを『橋渡し』として活用しました。
シール調査によって、来場者の正確な居住地構成が『十和田市内20%』『青森県内43%』『県外26%』『海外11%』であることを導き出しました。
この工程を挟むことで、それぞれの居住地が持つ特有の消費特性を反映した、堅実に統計的拡大推計を行いました。

STEP 3

桜流鎚馬がもたらす地域経済への波及メカニズムと真の価値

令和2年青森県産業連関表を用いた波及分析



最後のステップが『波及効果分析』です。

算出した消費額が地域経済にどのように波及していくか、『令和2年青森県産業連関表』を用いて推計しました。

イベントで直接消費された『直接効果』。そこから市内の企業間取引へと広がる『第1次波及効果』。さらに、そこで生まれた所得が地域内の個人消費として再び使われる『第2次波及効果』。これら3つをすべて合算し、『総合経済波及効果』を算出しています。

また、分析においては単なる売上の連鎖だけでなく、純粋に地域に落ちた利益を示す『粗付加価値誘発額』や、下支えされた雇用を示す『雇用誘発効果』といった指標も使い、桜流鎚馬の価値を多角的に可視化しました。



調査分析 結果

調査データをもとに算出した
十和田市全体への経済波及効果



実際の調査・分析結果についてご報告いたします。
調査データをもとに算出した、市全体への経済波及効果の結果です。

調査分析結果①

推計基盤：令和2年青森県産業連関表

総合経済波及効果

4億4,902万3,734円



直接効果
(約3億2,100万円)



第1次波及効果
(約7,900万円)



第2次波及効果
(約5,000万円)

まず、イベント期間中に十和田市内で直接消費された金額である『直接効果』は、約3億2,100万円となりました。

さらに、この直接消費を起点として、市内企業間で発生した仕入れなどの取引による『第1次波及効果』が約7,900万円。

そして、これら一連の経済活動によって従業員の方々の所得が向上し、それが市内の買い物などで再び消費された『第2次波及効果』が約5,000万円と推計されました。これらをすべて合算した結果、本大会が十和田市域内にもたらした『総合経済波及効果』は、4億4,902万3,734円という非常に大きな数字となりました。

調査分析結果②

桜流鎚馬への支援は
十和田市に高いリターンをもたらす「地域投資」である



純利益の地域還元

1億5,962万円



雇用の下支え

66.4人分



行政への直接還元

455万円

これに加え、本調査ではさらに3つの重要な指標が明らかになりました。

1つ目は、純粋な所得として地域に還元された『粗付加価値誘発額：1億5,962万円』。

2つ目は、地域の雇用維持に貢献した『雇用誘発効果：66.4人分』。

3つ目は、市税として直接市に還元される『推定税収増：455万円』です。

桜流鎚馬への行政的な支援は、伝統文化の単なる『保存コスト』ではなく、とても高いリターンを生み出す『地域投資』であることが科学的に証明されました。



データから 浮き彫りになった 課題

乗り越えるべき2つの課題



しかし、この約4.5億円という素晴らしい成果の裏側で、データから『2つの課題』も見えてきました。

課題①：遠方客の周遊・リピート不足

高単価な遠方客の消費と体験が、
会場内だけで止まる「周遊の分断」が発生している



1つ目の課題は、『遠方客の周遊・リピート不足』です。

市内消費単価を見ますと、十和田市内の方が約3,300円であるのに対し、青森県外からは約2万9,000円、海外層にいたっては約6万4,000円と、遠方客ほど消費単価が飛躍的に高くなります。

しかし来訪回数を見ると、県外客の約6割、海外層の約8割が『今回が初めて』という新規の来場者でした。

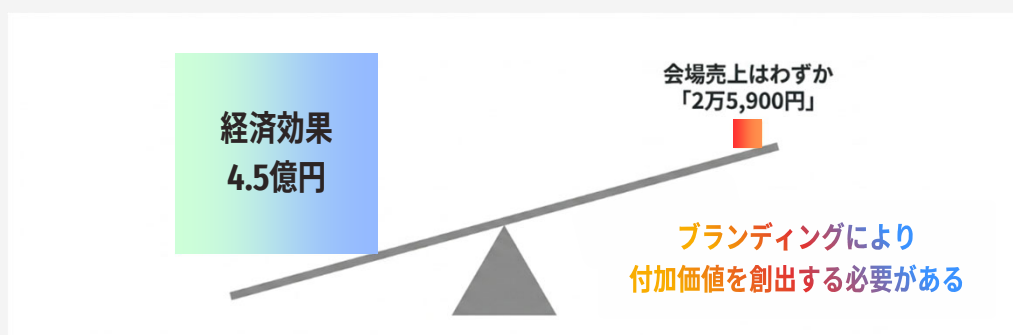
なぜ、高いお金を落とす遠方客が1回きりで終わってしまうのか。原因は『市内周遊の不足』です。

県外居住者のうち、過半数の51.4%が『桜流鎗馬観戦のみ』と回答し、市内の貴重な観光資源である『十和田湖』に訪れた方はわずか5.7%、『奥入瀬溪流』にいたっては2.9%にとどまっています。

せっかく遠方から訪れたお客様の消費と体験が、会場内だけで止まってしまっているのです。

課題②：ブランド構築と付加価値創出の課題

地域貢献度が高い一方で、
イベント自体の魅力や価値をさらに高めることが今後のテーマ



2つ目の課題は、『行政との連携によるブランディングと高付加価値化の不足』です。

これだけ地域経済を潤していながら、主催者収入の内訳を見ると、イベント独自の収益である『会場売上』はわずか2万5,900円にとどまっています。



発展に向けた 2つのアプローチ

十和田市とスポーツ流鏝馬の更なる発展を目指すために



そこで私たちは、この『会場内で終わる一過性の集客』と『高付加価値化の不足』という2つの課題を同時に解決するための、2つのアイデアを考えてみました。

アプローチ①：桜流鎗馬を起点とした十和田周遊モデル



馬とアートの回遊

現代美術館や馬肉料理店など、市の魅力スポットと観戦を連動させた回遊チケットを発行し中心市街地へ誘導。



ふるさと納税の活用

感動と熱量が最も高い会場特設ブースで市の特産品を返礼品として紹介し、帰宅後も続く継続的な関係を構築。



学生ボランティアガイド

来場者との温かい交流を通じ、十和田の魅力を深く伝え、リピート来場と口コミ拡散を促進。

1つ目は、周遊不足を解決するための『桜流鎗馬を核とした、十和田市観光の周遊化促進』です。

せっかくの集客と高い消費ポテンシャルを会場内だけで終わらせず、市全体にお金が回り、遠方のお客様が何度も十和田にリピートしたくなる仕組みがあればと考えました。

具体的には、現代美術館のアートや名物の馬肉料理店など、市内の魅力的なスポットと大会観戦を連動させた『十和田・馬とアートの回遊チケット』を発行し、会場を訪れたお客様の足を自然と中心市街地へ誘導して、飲食や買い物の機会を意図的に作り出します。

さらに、桜流鎗馬の迫力に感動し、十和田市への熱量が最も高まっているその瞬間を捉え、会場の特設ブースで市の特産品や伝統工芸品を返礼品として紹介します。このように対面で『ふるさと納税』をおすすめすることで、当日の消費だけで終わらせず、帰宅後も続く継続的な関係を全国のファンと築きます。

そして、これらのおもてなしの主役として、私たちのような地元の若者による『学生ボランティア街歩きガイド』を導入します。インバウンドや県外からのお客様に対し、学生の目線から『馬のまち十和田』の歴史や魅力をご案内することで、スマホの画面だけでは伝わらない温かい交流が生まれ、『またあの学生たちに会いに、十和田へ行きたい』という確実なリピートに繋がると考えます。

アプローチ②：「体験とモノ」の高付加価値化



海外客向け「プレミアム観覧席（VIPツアー）」

市の公的資源と掛け合わせ、富裕層に響く高い付加価値と大きな収益源を創出。



学生×地元企業による「新・特産品開発」

学生と地元企業の共創で特産品を開発し、全国に響くブランド発信と持続可能なビジネスを確立。

2つ目の課題を解決するためのアイデアは『スポーツ流鏝馬を軸とした稼ぐ仕組み作り』です。

具体的には、海外のお客様に向けた『プレミアム観覧席（VIP席）』の開発です。単に席を豪華にするだけでなく、朝は奥入瀬溪流での特別な自然体験、昼は流鏝馬の特等席、そして夜は閉館後の現代美術館を貸し切るツアーといった、市の観光資源と組み合わせた『十和田の魅力を詰め込んだ特別プラン』を共同で開発することです。

地域の魅力あるリソースと掛け合わせることで、海外の富裕層にも響く高い付加価値が生まれ、イベントの大きな収益源へと繋がります。

また、『おみやげの拡充』においては、私たち学生の自由なアイデアと、地元企業の優れた技術がコラボレーションした新しい特産品をつくり、『ふるさと納税の返礼品』として登録・活用できたら良いと思いました。

これにより、単なる会場限定のグッズで終わらせず、全国へ十和田ブランドを発信する持続可能な地域ビジネスへと育てることができると考えました。



私たちの調査結果とアイデアが、十和田市の輝かしい未来を切り拓く大きな一歩となることを願っています。

FUTURE GENERATIONS 活動予定



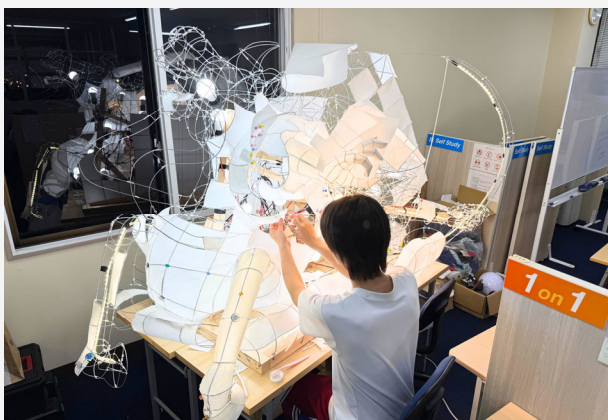
令和8年度青森県 統計グラフコンクール応募



桜流鎚馬経済波及効果調査を、グラフを用いてわかりやすくポスターで表現



FUTURE GENERATIONS 活動予定



「流鏝馬×ねぶた」制作

8月全国スポーツ流鏝馬八戸大会で
お披露目予定

